

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302644		
法人名	医療法人ささうち内科クリニック		
事業所名	グループホーム ぶなの森		
所在地	〒963-8052 福島県郡山市八山田6丁目45番地 (電話) 024-983-6355		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年4月2日

【情報提供票より】 (平成20年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年3月3日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤13人, 非常勤3人, 常勤換算	10.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	暖房費(12~3月)3,000円
敷金	有()円 無()		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.7歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ささうち内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設されてまだ2年であるが、管理者スタッフ一丸となって、質の向上を目指し、日々努力している様子がうかがえた。特に印象的なのは、多くの利用者やスタッフの写真の掲示である。自然に様々な表情を見せる利用者から、生活の充実ぶりが分かる。また共同製作の様々な作品の作成過程などの写真もあり、その場にはいない者も、追体験できるので、家族などにとっては安心できるものであろう。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を受け、その改善に取り組み、結果を出していた。(例、家族への報告の内容をより充実させた。センター方式によるアセスメントを実施した。など)
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が全員で評価に取り組み、その結果を今後に活かしていこうとする姿勢が感じられる。特に自己評価項目の取り組みが必要な項目が多いのはその姿勢の現れだと考える。実際に訪問してみるときちんと取り組まれていることが確認できた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	定期的開催し、記録も適切にされている。会議においてヒヤリハット内容の報告を行い、サービスの質の向上に向けて積極的に意見を求めるなどしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族と良好な関係が構築されている様子を訪問時確認できた。随時連絡を取り合ったり、定期的報告をする中で意見や苦情をくみ取ろうとしており、出てきた問題点には速やかに対応を図っている。家族会も設立され、今後さらに運営への意見などを聴取できると思われる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	定期的に関係を持っている学校があり、ホームの行事に招いたり、町内会に加入し地区の行事に参加するなど交流の機会を持っている。また外出時や畑仕事の際など近隣の人と声を掛け合う関係を持ち、少しずつ訪ねてもらえるようになっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価の指摘を受け、理念の具体的な実践の在り方を考え、地域密着型サービスの役割を反映した目標を掲げて取り組んでいた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員に対する指導時にも、理念に基づくことの意味を言葉で判りやすく、理解できるように指導し、スタッフも理解してヒアリングにおいても自分なりの言葉で説明できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生・中学生との交流も、継続して続けられていることが、展示物の写真や作品から感じられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員は共有しており、現状に満足するのではなく、さらなる向上のために、具体的な改善案を見つけだすなど、問題意識を持って取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催され、報告事項もきちんと細くなくされている。会議での意見を業務に反映させている。出席者同士の良好な関係がうかがわれる。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	預かり金の出納帳・領収書と近況報告について担当スタッフが手書きの文書(A4)を送付している。広報紙「ぶなの森」にも来月の行事や職員紹介など家族が知りたい情報が細かく記載されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を結成し、19年度は2回開催した。積極的に家族から意見がまだ出ないというので、出やすい雰囲気作りのため、身近なことから話を進めるなど、課題の提示の仕方を工夫すればより活発な家族会となるのではないかとと思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	寿退職の場合などは、利用者からもお祝いを述べてもらっている。異動の際は担当者同士だけではなく、他の職員も支援して影響を少なくしている。		担当の申し送り時に、利用者の喜ぶことなどを伝えておくことで、精神面の安定の一助となると思われる。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は本人の希望も入れ、段階に応じて参加している。情報周知には所内回覧板を使用している。内部研修は定期的に行なわれ、テーマは職員のアンケートから決めることもある。外部研修への参加は有給で、研修受講後は報告書を提出すると共に、スタッフへの伝達研修が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、他の施設の職員との交流を持ったり、外部研修会等で情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若いスタッフが多いことから、行事や料理など、利用者から教えてもらうことが多く、支え支えあう関係が自然な関係で生まれている。膨大な利用者のスナップ写真からもスタッフとの関係の良好なことが見受けられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声をかけ、本人が満足ゆくまで共に行動するなど、その日の体調や気分を把握したきめ細かいケアを行っている。センター方式のアセスメントシートを用いることにより、新たな気づきがあったという。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ間での情報の共有や、カンファレンスと共に、本人、家族からも意見を求めて介護計画を作成している。定期のプラン見直し時期は全員参加のカンファレンスを実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリング記録にきちんと記載し見直しを行ってはいるが、介護計画上の何についての評価なのかが曖昧で、担当者により内容にズレがある記載になっていた。	○	語句の使い方や、モニタリングのポイントの記載方法を工夫するなど、個人の捉え方でずれが生じないようにしてほしい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の本体が病院であることから、定期的な診察日も決められていた。また以前からのかかりつけ医への受診にもスタッフが付いて行く事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針の整備と、同意は得ているものの、実際の体験をとおして、個々の状況によって変わってくることに気づきがあった。それについての検討はなされていない。	○	ホームの中で引き受けられる状況とそうでない状況を区別したり、他の利用者へのサービス低下にならないよう、取り組みを具体的な場面に当てはめて検討していったらどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	記録の保管等についても問題は見受けられない。利用者への対応についても丁寧な対応である。また居室は利用者の希望に沿い、部屋を空けるときは施錠している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の調子に配慮したり、本人のペースを大切に、利用者の趣味や希望に沿うよう心がけて取り組んでいることがうかがえる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの当番表が貼られており、当番の利用者は調理場に入り、その他の方もそれぞれが楽しそうに作業していた。おやつも手作りで、それぞれの役割に応じ参加している。何もしない方は美味しいと言って食べることで感謝の意を表していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望の時間に利用している。無理強いはなく、本人の体調や気分に合わせて、入浴を楽しいものと理解してもらっている。お一人で入浴する方だけでなく、気の合う方と二人で入浴する利用者もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	いろいろな場面に役割を持ってもらえるようにし、必ず感謝の言葉を述べている。役割については、個人の希望を優先し、利用者や家族と話し合いながら進めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物や散歩の他にも、地区の行事に参加したり、お正月にはお参りに行ったりと、外出の機会を作っており、その様子もたくさんの写真などで確認できる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠もなく、スタッフは利用者の動向に常に注意を払って安全確保している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練等も行われており、連絡マニュアルなども整っている。夜間を想定した訓練も実施したという。非常食は特に備蓄はしていない。	○	非常食を用意するだけでなく、非常時を想定した備蓄食品による献立づくりや携帯コンロによる調理なども体験することも考えてみてはどうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は担当者が記入している。個々に違う食器やカップを使用しているがその容量を把握しており、きちんと摂取量を把握できていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの利用者が共用の場所で過ごしていた。季節感に溢れた展示やスタッフと共同作業の展示物が飾られ、童謡やポピュラー曲の流れる中で思い思いにゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置も、利用者の希望に合わせて置かれており、床も利用者個人に合わせた安全面に工夫がされている。どの部屋も利用者の使い慣れたものを持ち込み個性が溢れる部屋である。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームぶなの森

記入担当者名 渡久地 眞由美

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。